

京交山岳部報

No. 304

'78 2月号

〔第1162回例会〕

30周年記念 京都府下30山 その2

三 岳 山

(R)

日 時 2月5日(日) 6.40 京都駅山陰線ホーム集合
コ ー ス 京都一福知山一中佐々木…七王子神社…三岳神社…三岳山…三岳神社…
金光寺…六所神社…喜多…下野条一福知山 1/2.5万図「三岳山」
担 当 者 九条 田中忠久(TEL 351) 申込み〆切 3日(金)

〔第1163回例会〕

氷 ノ 山

(T)

日 時 2月10日(金)~12日(日) 京都駅山陰線ホーム10日23.00集合
コ ー ス 京都一鳥取一若桜一春米…ワサビ谷…氷ノ山…二ノ丸…戸倉峠
担 当 者 本局 武田喜久郎(TEL 308)

参加希望者は事前に連絡して下さい。 申込み〆切集会当日

〔第1164回例会〕

向 山 △695

日 時 2月19日(日) 二条駅 6.50集合
コ ー ス 京都一和知一脇谷…向山三等三角点…往路下山
担 当 者 坂井久光(TEL 629) 1/5万図「綾部」

〔第1165回例会〕

ファミリースキー

花 背

日 時 2月26日(日) 8.30 上賀茂御園橋上流堤防集合
担 当 者 大槻雅弘(TEL 268)
備 考 毎年行っているおなじみのファミリースキーです。マイカーで行きますので参加者は連絡して下さい。

○ 今月の集会 ○

日	時	2月8日(水)	午後7時から	下鴨寮
議	題	1. 例会(No.1160~1162)	部員動静	報告
		2. 総会について		
		3. 水ノ山スキー登山の打合せ		
		4. 連絡事項 その他	一当番	烏丸支部-



註釈もれの馬谷山

宮 後 正 樹

納山祭の夜である。北山の入口、静原の山ふところに賑やかな酒宴たけなわの席上、どこから採りて来たのか、山村前部長が「馬谷山というのが地図に載っているが…」と耳よりな話が出る。よく聞いてみると京都府総務部統計課が出している20万分の1、京都府全図版の統計書「京都府のすがた」の地図上に出ているというのである。

場所は美山町の深見トンネルの北東、中の部落を結んだ線上の $\Delta 750m$ 峰である。早速小生も府庁の3階にある統計課を訪れその「京都府のすがた」を貢求めて確かめてみたところ正しく $\Delta 750m$ に馬谷山とある。しかも「この地図は建設省国土地理院長の承認を得て同院発行の20万分の1地形図を複製したものである」とある。そのほか人文社発行の日本分県地図地名総覧(国土地理院承認、32万分の1図)の近畿地方図にもはっきり馬谷山 $\Delta 750m$ と出ている。ところが国土地理院の20万分の1図「京都及大阪」や5万分の1図「四ツ谷」には山名は書かれておらず、5万分の1集成図「京都北山と比良山」や2万5千分の1図「中」にはチャンとホサビ山という山名が書かれており馬谷山とはどこから来たのか不明である。しかし火のないところに煙は立たないように、何もないところからわざわざ馬谷山というような名前を持ち出して来ることもなからう。何か馬に関係のあるいわれがないものだろうか。

美山町の役場へも電話を入れてみた。 $\Delta 750m$ はホサビ山という。しかしホサビ山とその西方に連なる山波を総称して馬の背と呼んでいると、わずかに馬が出て来もしたが、馬谷山の名前を聞き出すことはできなかった。それではと、高校時代の先輩で美山町野添に住みついてずっと地元の中学校で教鞭をとっている中田久一先輩に「 $\Delta 750m$ 馬谷山」についての詳報を調べてもらうべく依頼状をしたため朗報を期待しわくわくしながら返事を待ったのである。

しかし考えてみると例のエトの名前のつく山を求めて登り続けている十二支会がこんなに近い京都北山の馬谷山を見逃すはずはない。見当らなかつたからこそ、12年前の午歳にははるばる和歌山県日高川の山奥、 $\Delta 957.2m$ の白馬山^{シマヤマ}まで出かけて行ったし、今年はまださらに遠く九州まで足をのばして福岡の馬見山^{アサシ}に登ろうというのである。

たまたま午歳正月にめでたく還暦をお迎えになる畑 照人さんの記念山行に適当な山がないまゝ畑さんと昵懇の愛宕山を予定して例会を出していたので、ヨシ、コレにしよう。とばかり新年号の校正ギリギリに急拠この馬谷山をそのまま拝借することとした次第である。

果せるかな、旧ろうは12月の31日、すかさず今西錦司先生から書面を頂戴したのである。「京交山岳部報新年号の勞頭に「馬谷山」という山が出てきますね。ハテ「四谷」にはそんな名前の山ついで聞いたことがない。 $\Delta 750.2$ なら「ホサビ山」に外にないがなと思念のため地図を開いてみたらやはりそうでした。「ホサビ山」ならあの辺では眼立った高い山で地元でもよく知られた山です。どこから「馬谷山」というような変な名前を借りてきたのですか。…中略…地元で昔から定着している名称のある山を、いまさら新名で呼ぶ必要はないと思うのですが、とくに「北小松」や「四谷」の山はわれわれ京都人にとってはホームグラウンドの山なんですから、もすこし伝統を重んずるようにしていただきたい。みなさんお忙しい方ばかりだからいちいちチェックできんでしょうが、小さなミスでもこれはやはり部長さんの責任になるのやから。山名の統一ぐらいはしておかれることを希望します。(なお念のために申せばホサビ山西方の独標744は「上ノ山」です)…後略

誠にごもっともな有難いご忠告をいただき今さらながら軽卒に汗しているところである。せめて「ホサビ山(馬谷山) $\Delta 750.2m$ 」とすべきであったのに註釈ヌキで「馬谷山 $\Delta 750.2m$ 」としたためにご迷惑をかけてしまったのである。

正月になっていろいろと奔走していただいた中田先輩から電話があり「あの山は内久保の山で地元でも馬谷山と呼んでいる」とうれしい返事であった。ところがその後再び連絡があってどうもあやしいとのこと、喜びもツカの間、全くガッカリであった。

正月早々からトンだ失策を演じてしまったが、この責任は蜷川さんに云ってくれとは探して来た山村さんの弁である。とにかく去る1月8日中田先輩ともども18人の参加を得て錆びた穂先に純白の新雪をいただいた初々しいホサビ山二等三角点の山頂を踏みしめ畑さんを囲んでお祝いすることができうれしい限りである。

京都岳人のふるさと、京都北山の山名、谷名については、このホサビ山(馬谷山)に限らずほかにもアヤシイ名前や不適当な名称が既刊の案内書や地図などに記入、発表されて誤って伝えられたり、不評を買っているものもある。

京都北山の山名の統一こそ、京都岳人の名誉にかけてもやらねばほかにやる者はない。「京都北山の山名の統一のための調査、修正こそ京都岳人の、ひいては京都府山岳連盟の仕事ではないか」今西先生はこうつけ加えられた。

同じ失敗を二度とくり返さないために皆さんのご協力をお願いする次第である。

元 始 — 年頭感あり —

緑 峰 生

戦前は1月3日を元始祭といって祝祭日のうちの1日であった。然し、現実には年末年始の連休の中に含まれるので休日としての楽しみとか恩典は感ぜられなかった。「元始」を辞書でひくと「ことのはじまり」という意味のようだが、元始祭は天皇が宮中三殿で行なう祭のひとつで、神社によっては祭典がいとなまれることはあっても一般人には殆んど関心がなかった。

今年の1月3日は前日からの天気予報が近畿一円例外なく曇時々雨と報じていた。関西地方に雪もなく、交通機関の混雑を考えると速出は考えてもみなかったが、好天なら何処となく歩いてみたいと思いながら早朝目を醒ますと雨である。あきらめて寝るほどに9時頃南方の空が明るくなっていたので起床、朝食もそこそこに家を出ると北の空は今にも降り出しそうな密雲である。靴をはいた以上出なければならず、傘をもって新西国三十三カ所のひとつ比叡山延暦寺の方に足が向いていた。

市バス銀閣寺亭で下車した時は11時10分だった。近くのK教授を訪れようとしたが探して判らずに通過した。かって松嶋吉之助氏が交通局長時代のこと、バス3号線終点近くに住んでいた正月に私が地下足袋をはいて山中越を大津まで歩こうと立寄ったことがある。「近藤というやつは面白いやつだ。正月に俺の家に地下足袋をはいてやって来よった。」と会う人に話していたそうだ。年始の挨拶に地下足袋をはいて局長宅を訪れる人は前にも後にも例がなかったのだろう。砂の採取反対のポスターが貼られている白河砂の採取場のいくつかを見て歩いているうちに雨が降りはじめた。自動車の通過量も多くはない。かっては通りすかりにラジウム温泉に入って行ったこともあるが、今回は勿論通過である。時に11時50分。

地獄谷で山中越の道に別れて谷筋に入るのだが今頃はこんな道を通る人はないのだろうか。道はくすれ、草や灌木は茂るにまかせて通過が面倒になって来る。雨が雪に変わったが傘をさしてはますます通りにくく、ズボン濡れ靴の中に水がたまってずくすくである。夏の雪渓を歩くのに「キャラバンは駄目、セルバンでなけりゃ。」と口癖のように云っていた大伴夫人の顔がちらっと目に浮んだ。この道筋を少しはなれた尾根筋は昔はハゲ山で比叡アルプスと云った時代があるが、今は木が生えてアルプスと云える様相は全くない。ある意味ではこれは大変結構なことでもあるのだが。

50分歩いたところで石鳥居のある修学院からの道と合する。西方の眺めが多少開けて今までの谷底の道とは一変し、堰堤工事のトラックのために道幅が3~4mに拡巾されて歩きよく、積雪10cmがあるとはいえ苦にならない。行くこと20分で月吉大明神の响の近く比叡山ホテルの水溜りポンプ場がある。更に道を続けてそこから15分でドライブウェイにつきあたる。工事道路はここでドライブウェイから分岐していた。またこの地点は東海自然歩道が大津御崇福寺跡から2.9kmの地点で、無動寺谷まで2.2kmである。ここからが旧来の道ながら東海自然歩道に組入れられている。

樹林の中の雪道で歩いて来る人にはじめて出会った。弁財天ではちょうど14時。ここまで来ると参詣人の数も三々五々でさすが比叡山という感じである。腹がへった。ケーブル終点でパンと牛乳にありつく。漸く動く元気が出た。延暦寺まではすぐである。

入口の関所でつかまった。拝観券を買わなければならぬのだが、ここまで来る道の途中に東海自然歩道を通るだけの人は拝観料をとらぬから申し出てくれと書いてあったので、そのことを云うと知らないという。寺思いの忠実な然し都合のよい従業員なのか。270円を支払わされる。(勿論こちらは朱印を目的として来ているので堂宇の拝観はしないが単なる通過者でもない。)京都市でも観光税創設時に観光と信仰とは区別するという方針であったことを思い出した。延暦寺に着いてみると新西国三十三カ所の寺は6km、奥の横川中堂でそこまで行かないと朱印はないという。案内書には延暦寺とだけなっているので、ここが済めば日吉神社や近江神宮にまわる予定だっただけじゃなかったが、今となっては引返しもできず歩くことを決心。雪は漸くやんだ。

奥比叡ドライブウェイに不即不離で東海自然歩道は横川中堂に至り大原に下りることになっていることは予め知っている。地図はルックサクに入っているが、家を出る前に見ておいて途中ではみないのが私の最近の感を養う訓練方法のひとつでもある。今回は人の踏んでいない自然歩道を通るより除雪してあるドライブウェイを通る方が多少迂回しても早いだろうと思いカンニングをする。幸い雪の正月の奥比叡ドライブウェイでは自動車通過量は極めて少なく、僅かに3台に出合っただけ、怒られずに歩いて60分で横川に着いた。急いで歩いたがこれでは6kmはなかったと思う。

横川中堂に着いてみると午後4時だから中堂の本堂の戸はしまっており、寺務所をのぞくと石油ストーブがついているのに誰もいない。夏目漱石の草枕ではないが大きな声をかけても人の出て来る様子はなく、元三大師方面を20分ばかり探して元の所に来ては矢張り人影ひとつない。待ってもこの時間では朱印をもらえる可能性もないので下山と決定した。聞けば留守番の婦人1人を残して他の僧は皆帰るのだという。日が暮れてはめんどうと坂本への道を急いだ。案外早くついた。ケーブル駅まで55分。更に20分で国鉄湖西線叡山駅に至り折よく来た新快速電車で京都へ帰った。

この日より先、1月1日には地元の天王山に初登りをした。然しこの山は標高270mだからある人達は山としての扱をしないようだ。私も箱庭の山ぐらいにしか考えず、うちの屋敷内のように親しんでいるが、昔この山をよりどころとして大戦争をぶった武将もあるのだから、「山高きが故に尊からず、(木あるをもって尊しとなす)」などという気持はないが、各人各様の山登りをするには干渉をしない方がよいと云えるのだろう。

こえて1月5日は快晴だったので午後から出かけて久しぶりに芦屋ロックガーデンを訪れた。阪急芦屋川駅を午後2時15分下車、歩いて30分で高座滝に着く。日曜日でなく、正月休みの延長期間中のためか山に来て居る人は極めて少ない。ここまでに2人に会っただけである。木の葉が落ちて藤木九三氏のレリーフも一際よく見られる。

例により地獄谷を廻行、ここにも人影はない。30分ばかり登ったあたりから陽あたりのよい尾

根筋に出て萬物相、懸垂岩と辿って高座尾根を風吹岩まで足をのばす。2人連れが下りて来た。自分らがラストかと思ったが人に出会ったと挨拶して行った。

高座谷、キャッスルウォール、岩梯子、荒地山へと思ったが日が暮れてもどうかと思い、少憩後、高座尾根を滝へ下りる。道すがら落陽に映える荒地山が招いているようで気持が残る。滝までは30分、更に30分で芦屋川駅に着いて電車に乗った。

「山と溪谷」誌1月号に76才でまだかくしゃくとして山に登っているキャラバンシューズ発案者佐藤久一朗氏の姿が載っている。大阪の松村高氏からの年賀状によれば82才を迎えたがまだ当分は山とスキーはやめられそうになく、今年は台湾の玉山を予定しているとあった。これらの2人の先輩に比べれば私などはまだまだ青二才の域を出ない。昨年の山岳部総会では例会参加回数、集會出席回数ともに最高を記録して賞を一手に引受けるなどと大見栄を切ったが現実には全くこれに反した1年であった。今年ぐらいいは仕事の方もおひまをいただいて実行にうつしたいが、前記2先輩の年令まで息長く登ろうとすればそう慌てることもあるまいと思ったりもする。東海自然歩道大阪東京間も歩きたいが今年はとても着手できそうにない。西国三十三カ所や新西国札所巡りも数年前にはじめてからまだ完了していないが、後の鳥が先に行くのたとえのように多くの人に追い抜かれてしまった。神社、仏閣も手あたり次第訪れてみたいが、気ばかり先に行って身体が伴わないのは今更どうにもならない凡人の常か。1競輪、2競馬、3パチンコ、4麻雀、5囲碁(朝鮮碁はこの限りにあらず)、6将棋、7酒(ワインを除く)、8煙草、9ゴルフ、10ボーリングに手を出さないことも昨年と変りはない。「元始」今から何もかも再出発と行きたいと思った年頭である。

(昭和53年1月7日)

第1155回例会

三十三間山

大槻雅弘

土地の諺はあなどれない。特に天気に関するものは…。国道303号線を西行し、嶺南地方にさしかると、京都を出た時の陽は厚い雲に覆われ、車は小雨の中を走る。27号線に出た頃は、少し明るくなったが、ワイパー無しでは走れない。何人かの人がにがい経験をしているだろう…。弁当忘れても傘忘れるな。

車は、倉見峠を越えた所からすぐに倉見の部落に入り、部落の中ほどで道を尋ねて、細い道を抜け寺を過ぎた所で駐車した。

納山祭は別にして、本年の納山になる今日の山行に、無理をしても行くと言う宮後氏と、おそらく本年例会参加トップの三橋氏と小生の三人での山行となった。

心配した雨も止み、厚い雲の層は山頂より上に昇り、空も明るくなってきた。林道を10分

程進むと右手に「三十三間山登山口」と書かれた立派な指導標が建っている。三方町が建てたのだろう。しっかりした柱に打ち付けられた板には、右手にとりつく様に書かれている。杉の中を径は小さな谷に沿って左岸を登る。途中、大きな岩が目止る。家一軒程ありそうな岩は、下方が空いていてピバークが出来そうだ。

径はやがて谷を渡り、じくざぐに急坂を登り支尾根の稜線にとりつく。よく踏まれた道は、相当この山に登られているのだろう。登り出して1時間。展望台、夫妻松に着く。

古い松が何年も風雨にさらされながらも、立派な枝振りを見せ、まるで庭師が手入れした様に見事な形をしている。小さなベンチ替りの、板を渡した休憩所のそばには一段と太い二本の松。これが夫妻松だろう。天気良ければ見晴しもいいのに、海もカスミ、残念だ。目指す頂上の稜線も見え、もう一息という時に心配した雨が降り出す。冷い雨に打たれるのもイヤだし、早速雨具を着け出発する。

落葉が往をうめ、その上を雨が流れる。色とりどりの落葉、自然はこんなにも何色も色が出せる。冷い雨の12月。山は何かワビサを感じさせる。四季折々の山も天候により、その時々のお味を感じる。そんな事を思いながら歩いている内、「風神」と書かれた所に来る。

径より少し右手に小さな地藏さんと石碑が建っている。「為 国家安全悪風退散象病悉除如意吉祥」と書かれている。悪風とは台風か、風邪か。病悉除とは病の神か。村の方に向かって建っている地藏さんにまだ新しいみかんが二つ供えてある。

「風神」からは、すぐに本峰の稜線に出て枯ススキの間を進む。先頭を歩いていた宮後氏が「オーツーム」と大きな声を出したので一同びっくりする。見ると目の前を大きな鳥が飛んで行く。その飛んだ所へ行くと、今迄食べていたのだろう、鬼がかわいそうに臍物を出して死んでいる。これも自然の姿なのか。目の前でテレビの「野生の王国」を見た感である。(帰宅して本で調べるとどうもイヌワシのようであった。)

先程の興奮もさめた頃、広々としたススキ原を過ぎ、10時50分、所々にわずかの雪の残った頂上、三角点に出て本年最後の万才三唱をした。

参加者 宮後正樹、三橋 勉

コース・タイム 山科7.00～9.00 倉見9.10～9.50 展望台-10.30 風神-10.50 頂上
-12.55 倉見-3.30 京都

畑 照人氏還暦お祝い登山

馬 谷 山

翠 峰

私と何度も山行を共にしていただいた名誉部員の畑さんが今年めでたく還暦を迎えられると云うのでお祝い登山が計画されたが、その山の選定に苦勞していた。近くに馬の名の付く山がないから

である。速くになり白馬始め馬糞ヶ岳や今年の十二支会登山の行われる馬見山（福岡）があるか、皆で簡単に登山出来る山ではない。すると名誉部員の前部長山村さんが、ホサビ山（△750.2）が馬谷山の名で府の地図に載っているとのこと。これ幸いと一同この山に決定したのである。宮後部長が、鴨沂高校の先輩で登山口の野添に住んでおられる美山町宮島の北屋中学の教諭の中田久一さんにその名の由来や登路を尋ねられたがわからず、中田さんも深見に住んでおられる西浦左門さん（私の知合で山村民俗の会々員）に聞かれたが知らないとのことと判らすじまい。

1月8日高雄に集合した一行は5台の車に分乗して一路国道162号線をつゝ走り、笠峠の難路も今や昔、新しいトンネルで抜け栗尾峠を越え周山を廻り、深見峠もトンネルで越し、由良川の手前で右折して旧道に入ると野添の部落で新しい公民館に着く。中田先生が出迎へに来られ、一同奥さんから熱いお茶のもてなしを受け、馬谷山附近の航空写真図を見せて頂いた。

少憩後一同出発。林道終点で駐車する。先着の大阪ナンバーの車が2台あり、小屋には犬がつかいでありハンターの入山しているのが判った。雨が降って来たので小屋で火を炊いて一休みしているとハンターの長が下山して来て「猪を打込んだが逃がした。皆が登山されるなら一同を下山さす」と云って号砲三発。応答あり、間もなくハンターが下山。代って一同出発。雨は少し降っているが大雨はなかった。

中田先生と話しながら峠道を登って行く。途中分道があるが左へとって行く。杉の植林の急斜面のジグザグは滑り易く歩きにくいが雑木林の中を行くようになると道もよくなり間もなく峠へ。

女性名誉部員の王生さんや中田さんの奥さんも参加され元気についてこられる。河内谷へは真直ぐ道が下っており、それと交叉して送電線の巡視路がついている。少し悪い処もあったが道のあるのは有難いもので谷をまわりこんでジグザグに登ると送電線の鉄塔の立つ段に出た。

後はもう一息で尾根筋に沿って此の道を辿り、まわりこんで左の小道を登りつめると山頂に達した。雪の中に三角点が顔を出していた。幸いに雨もやみ、部長の発声で万才三称。畑さんの還暦祝いの万才三称や、お祝いの赤のチョッキ贈呈。その後畑さんの胸上げや、年男の大槻さんや武田さんの息子さんの胸上げ。一同歓喜にひたり周囲の展望や写真の撮影と楽しい一時をすごし、やがて下山となった。残念ながらガスがはれず、速くのピークははっきりしないが、西に平屋富士の743ピークが、雨に送電線に沿って△665（点標名深見）が小さいながらも鋭い峰を見せていた。また下山途中、長老ヶ岳を望むことが出来た。

小屋へ下ると先発で下山した大槻・武田・三橋・広瀬の諸氏の努力でせんざいが作られていた。

一同喜んでおかわりをするが餅が多く食べ残す次第であった。食事が終り一同火の仕末も厳重にし、再び分乗して公民館へ。ここで先生と別れ厚くお礼を云って出発。又国道をひた走りに走って無事高雄に帰着。ここで一同めでたく解散した。

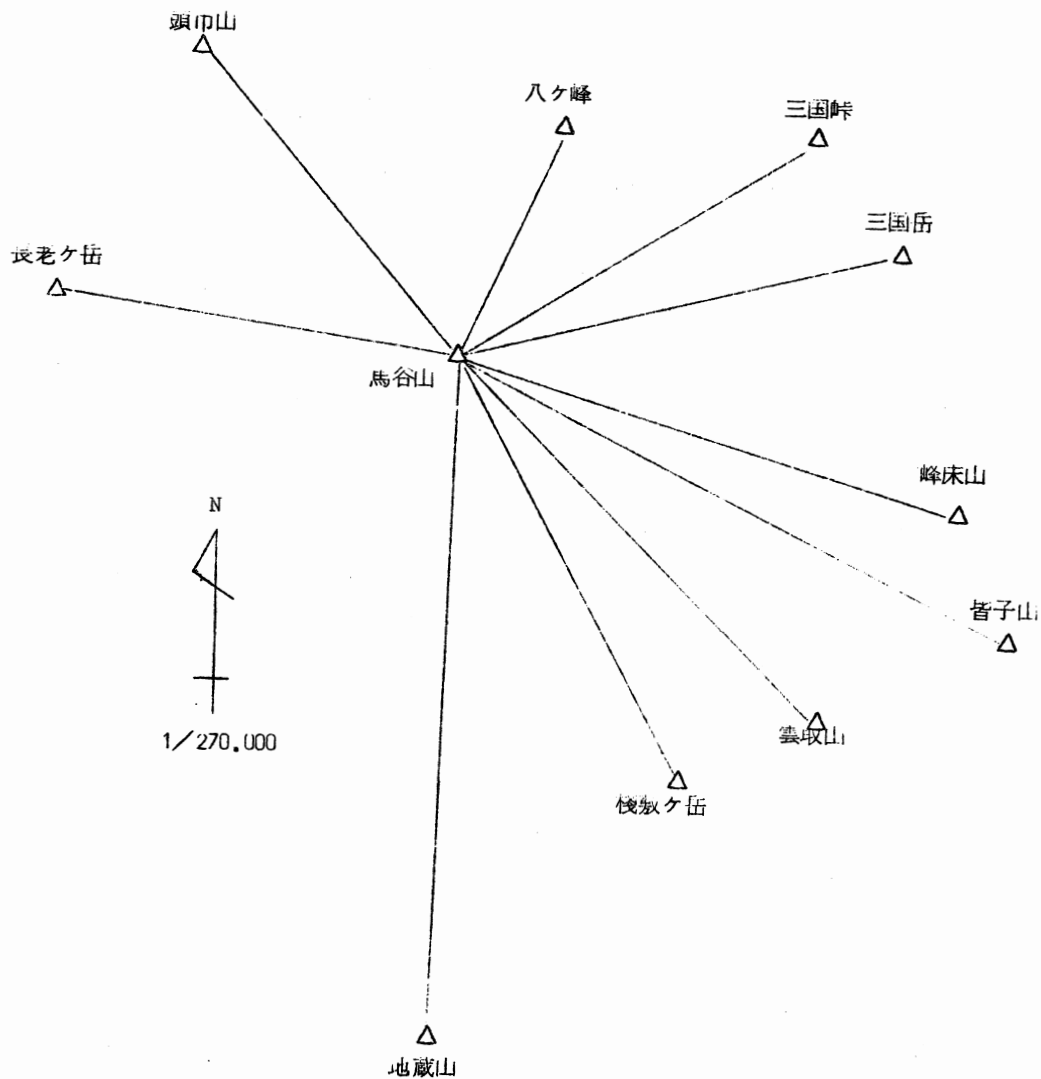
会費や食料計画を主宰された大槻さん御苦労さまでした。又畑さんも一同のお祝いに寄贈された赤いチョッキを着て益々お元気で今後共山へ登られんことを。

〔山行参加者〕 武田 子二人、大槻、三橋、王生、山村、中村維、畑、宮後、坂井、尾崎、津出、田中夫妻、広瀬、田中定、地元中田先生

計 18名

〔記念品賛同者〕

岡田茂久、徳野 治、石田幸次、高窪輝夫、吉田 武、伊藤潤治、牧 定夫、
森下村重、近藤 薫、西村克己、盛田一郎、鷺見敏一、岡本義弘、計 13名



馬谷山 $\Delta 750.2$ 位置図

(作図・田中)

還暦行事の御礼

畑 照 人

明けましてお目出度うございます。部員の皆様方はさわやかな新年をお迎えの事と存じます。私今年還暦を迎えるに当たり1月8日、馬谷山登山当日は早朝より悪天候にもかかわらず、多勢御参加下さいまして有難く存じます。また御有志の皆様より結構なる記念品を賜わり、入部以来の最大の感激でした。尚今後共、部員の一員として山へ行くつもりですのでよろしく御指導を願います。以上簡単ですが御礼の言葉と致します。

京都府下30山 その1

新雪の由良ヶ岳

田 中 忠 久

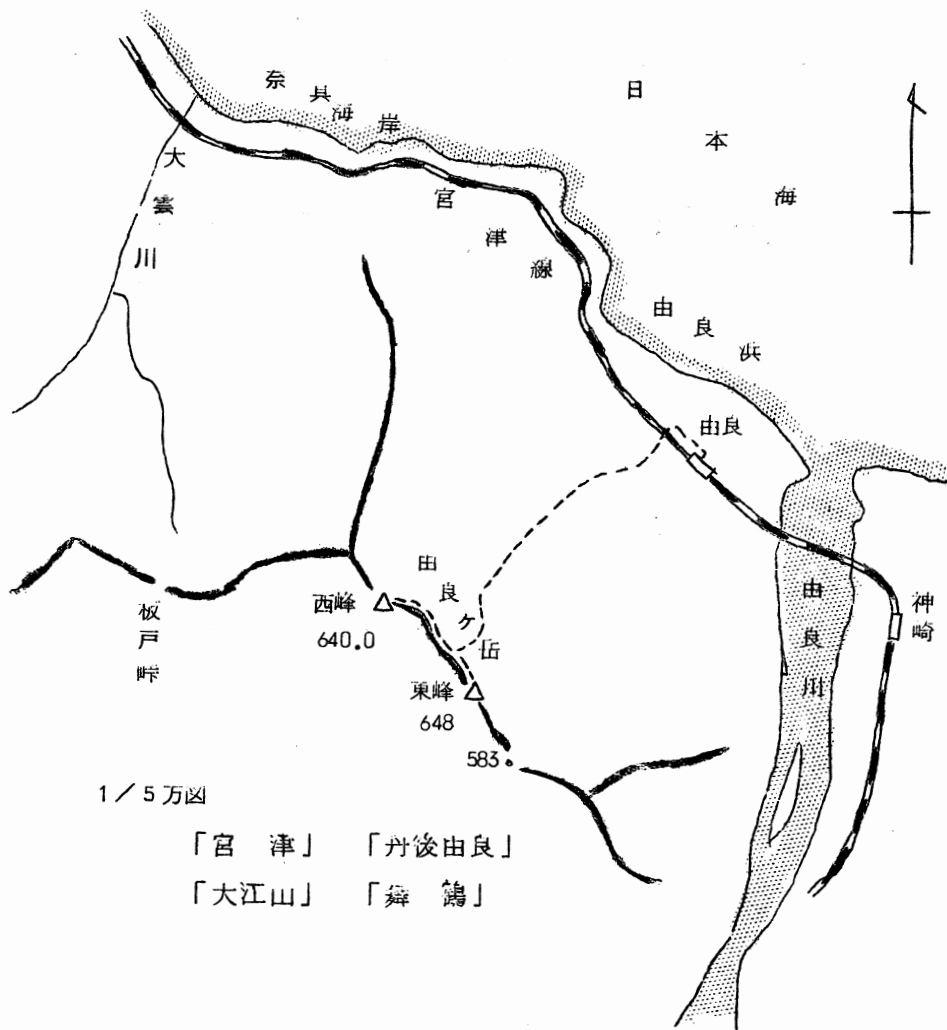
由良ヶ岳は丹後の名峰である。芦生の原生林に源を発した田良川が大河となって日本海に注ぐところ、そこに由良ヶ岳がある。「この由良ヶ岳の眺めをもっとたくさんの人に味わってもらいたいものである」と宮坂さんの山行報告にもあった。

1月11日 京都駅6時46分発の福知山行ディセルカーで出発。上島さん、三橋君、坂田君、広瀬君に私、嵯峨駅から鷲見君が乗って来て6人のメンバーが揃った。鞍部、西舞鶴で乗換えて丹後由良まで約1時間、駅のホームでそばを喰べたり、車内で登山準備を整えたり、けっこう楽しい鈍行列車の旅であった。

心配された天候も丹後由良駅で列車を降りた頃にはすっかり晴れ渡り、新雪に映える山々がすばらしい日本海の冬景色を演出してくれていた。まるで今日の日のためのように…。踏切を渡り、国民宿舎「由良ヶ荘」の前を越えて登山道に入る。小さな尾根を登って行く登山道には2~30cmの新雪が積って歩きやすい。鷲見君を先頭に私達はどんどん登っていった。

登るにしたがって、しだいに広がっていく海の景観はすばらしい。こゝえりなカモメをみつめる厳しさこそなかったが、いま真冬の日本海が眼下に広がっていくという何か感傷的なものが、海嘯りと共に胸中を横切っていた。

雪は少しづつ深くなったが、2時間足らずで東峰と西峰の中間鞍部に達した。鞍部から左へ、虚空蔵さんの祀ってある東峰に登る。由良ヶ岳山頂である。石造りの小さな祠がたっていた。完全な360度の展望であった。大海原、すばらしい海岸線、海に注ぐ由良川の赤い鉄橋に1輪漕成のディセルカーがまるで模型列車のように渡っていった。マッチ箱のような家々の集落、丹後由良に止った。何人かの人を降ろし、何人かの人を乗せて、またゆっくりと動いて行った。まるでおとぎの国を見ているようであった。新雪に映える山々もすばらしかった。とくにピラミッドのような青葉



山とひとときわ高くて立派な三岳山が印象的であった。

山頂で昼食を済ませた私達は、中間鞍部に戻り荷物をデポして三角点のある西峰に登ることにした。鞍部から雪の中を約15分の登りで三角点に達した。ここからの天ノ橋立の眺めはすばらしい。そして大きなボリュームの丹後半島の山々、今日はまるで2つの山を登ったような充実感があった。広瀬君が「京都府下30山登山 由良ヶ岳 53.11.1」の標識を木立に打ってくれた。なかなかよいものであった。

さあ下山しよう。雪道の下りは早い、中間鞍部から由良駅へ30分ほどで下った。そして京都へ、山岳部の新年会に全員が出席して、また山の話に花が咲き、楽しい一日であった。

〔コース・タイム〕 京都 6.46 - 綾部 8.56 ~ 9.08 - 西舞鶴 9.35 ~ 10.10 - 丹後由良 10.35
…中間鞍部 12.25 …東峰 12.35 ~ 13.10 …西峰 13.30 ~ 13.40 …中間鞍部 13.50 ~ 14.00
丹後由良 14.35 ~ 15.19 - 綾部 16.18 ~ 16.20 - 二条 18.10

市民歩こう会に参加

田 中 定 勝

晩秋に包まれた山城の知られざる古墳廃寺跡や神社古寺を求めて豊かな自然と文化財を探る。

主 催 城陽市社会体育振興会

期 日 11月20日(日) 晴

集 合 国鉄上狛駅前 9時50分出発

コ ー ス 上狛 9.50 - 高麗寺跡 10.20 - 山城中学前 10.40 - 大塚古墳 10.50 - 神童寺 11.45

(昼食) - 綺原神社 14.15 - 猿満寺 14.20 - 高倉神社 15.00 - 井手の玉川 15.25

玉水 15.30 - 城陽 16.00

山城から井手の里へ

城陽市役所の本日の担当責任者の挨拶が有り次いで地元の講師の中津川さんの話を聞き出発した。古来多くの帰化人が住んだ山城町は西部を平野、東部を山、南部は木津川に面している。当地方は瀬戸内海-淀川-木津川というルートを通り大陸文化が早くから移入された。山城町には高麗^{こまかみこま}上狛^{もこま}下狛^{こまだ}、狛田という地名が残っているが4~5世紀に大陸から渡来してきた人々の集落である。国鉄上狛駅より南東へ進む基地をぬけると高麗寺跡がある。現在礎石と碑のみか地中の中にあるか京都府最古の寺といわれ聖徳太子の頃に創立されたと思われる。駅より西に出ると奈良街道に出る。こゝを上っていくと裕井にはいる。こゝには大塚山古墳がある。

山城地方最大の前方後円墳-大塚山古墳

大塚山古墳は木津川右岸の山ぎわに、東から西へ丘陵の裾を利用して造営された古墳で同じ地域に三基の前方後円墳がならんでいる。三基の前方後円墳はいずれも相似た規模をもち三基ともくずれ部に近い部分が国鉄奈良線でたち切られて、後円部だけが残っており、前方部には人家が建てこんでいる。大塚山古墳は丘尾の一部を修飾して営まれた前方後円墳で墳丘の主軸の長さは約105m、後円部の直径75m、前方部の幅72mの規模をもち山城最大の前方後円墳である。後円部の堅穴式石室は主軸と直角の方向をとり、長さ6.9m 幅1.2m 高さ2.7mの長大な石室で、底部には粘土床をもうけこの上に木棺が安置されていたと思われる。石室に平行してもう一つの遺構があつたが調査以前に破壊されていた。この古墳からは鏡三六面以上 ^{てつにはぎしんこうこ} 鉄横刺式短甲 ^{せめわとひんす} 小札革綴胃 素

かとうたちけんりどぞくてぞくとうすおのまのりかんなめ
鍔頭大刀剣窟銅鉄鉄刀子弁鎌^{ひら}などの副葬品が出土している。

北吉野山 ^{しんどうじ} 神童寺

当山は聖徳太子の創立といわれ、本堂は蔵王権現をまつる蔵王堂で北吉野山と称している。室町初期の瓦屋根が端麗な線を示し、阿弥院三尊や不動明王はすんなりと力強い姿だ。本堂左に鎌倉時代の十三重石塔がある。本堂や仏像は重文である。東±00mの天神社には初重の四方仏中に地藏像がきざまれている珍しい十三重石塔(重文)がある。

^{かいは} 綺原神社

蟹満寺の東山麓に鎮座する綺出部落の産土神で延喜式内の^{かいはひまけいみだひめ}綺原坐健伊那太比売神社にあたる。この地は古くは蟹満郷といい、これがのちに綺田綺原に転訛し、^{かばい かばた かむら}また樺井、樺田、樺原の字にあてられた。当社の祭神は素盞鳴命の妃稲田媛命とされているが、これは蟹を助けて観音の利益にあづかった蟹満寺^{かまんでら}縁起が、素盞鳴命のやまたのおろちを斬り稲田姫を救われた神話と結付いたからで、まことは神織一神にたてまつる衣服を織る養蠶^{かい}機織の守護神を祀った神社である。

^{かまんでら} 蟹満寺

一名紙幡寺ともいう。寺伝では僧行基(668~749)の開創で1711年(正徳1)京都智積院の亮範が中興したといわれる。昔この地方に仏心のあつた7才の少女がいた。ある日村の悪童らがいじめのカニを救い川に放って助けた。のちその父親がガマをくわえたヘビをみて娘をやることを約束してガマを助けた。父が帰って思い悩んだところ、ヘビが人間に化身してきて約束を果たすことを迫った。その夜素盞鳴や闘争で騒がしかったが翌朝無数のカニの手足がちぎれちぎれになっており、全身に傷をうけたヘビが死んでいた。これを見て両親ははじめて安堵し家をすてて寺としカニとヘビの冥神を祈ったのがこの寺のおこりであるという。国宝^{かむら}釈迦如来は本堂に安置され白鳳時代の作で金銅座像身代り坐世音菩薩(蟹満寺縁起)に深い因縁をもつカニの身代観音と称し厄除けの御本尊として古より人々の篤い信仰をあつめ祭られている。

高倉神社

倭白河天皇の第二皇子高倉^{たかくら}宮以仁王を祭る。そばには同親王の墓がある。以仁王(1151~1180)三采宮、高倉宮などと称せられる。母は権大納言藤原秀成の女成子、母が摂関家の出でなかったため、親王宣下もなく不遇のうちに成長した。1180年(治承±)源頼政の請いにより平氏のしるところとなり、頼政とともに円城寺にのがれ平氏と戦ったが利あらず、奈良にむかう途中流れ矢にあたって死んだ。しかし王の令旨をうけた諸国の源氏が平氏打倒に立ちあがった。

井手の玉川^{たまえ}

左大臣橘諸兄が7±0年(天平12)この地に壮麗な別業をかまえ、聖武天皇の行幸を仰いで盛大な宴遊を催したといわれる。井手町の中央を東西に流れる玉川は、天平の昔にこの川のみずぎわにくまなく山吹を植えたといわれ永年その美を誇ったものである。日本六玉川の一つで古来和歌などによく詠まれているが今は往時の風雅をしのぶことはできない。

蛙鳴く井手の山吹散りにけり 花の盛りに逢はましものを
秋はとにかく歩くのによい李助です。

愛宕さん

11月21日 附

畑 照 人

千日参り以来の愛宕さん参拝である。暖秋の為に紅葉の色がまだ鮮明でないといわれているが結構欣ばしくなっている風情であった。殊にどう丁中茶屋では折からの風に紅の葉が散る景色は気に入ったね。道も落葉の紅いジュータンである。そうそう何時も水取む岩清水の洞穴に「お助け水」の看板？が清滝フィルードアスレチック会社が建てたと思われるのがあった。水割り用によくポリタンに入れて冷蔵庫へ入れたものだ。今日は暖かいお茶が欲しい。矢張り季節ですね。石段も二段づつ飛び歩けるという事は身体の調子がよいということだろう。神社参拝、気温8°であった。下りは月輪寺へ。寺前のサザンカは満開。石梅花の花芽が大分大きくなっていて。来年の五月頃咲くものだから約半年も前から準備するのだね。逆光で見る清滝の紅葉を観賞しながら自転車で帰った。

初詣愛宕山

1978. 1. 1

広 瀬 烈

除夜の鐘の音を聞きながら、地元の氏神さん「伊豆神社」へ親子3人で本年の家内安全と御多幸を祈って初参り。

そして正月らしくない春の陽気に誘われて目覚めたのが8時。今年は街の混雑を避けて閑静な京都愛宕神社へ家族で行くことにしたが、あいにく気圧の影響で暖かいが曇り空で昨日来の時雨模様の中を思いきって5人揃って山行参拝する事にした。

京都バスで清滝へ着いたのが12時15分頃で急坂を下り渡狼橋畔で準備を整へて最も一般的コース表参道二の鳥居より元気良く登る事にした。又蘆花碑の前で初めての記念写真を撮って湿った木の葉道又ぬかるみそして変速的な階段を一步々進み、道中年輩の方より今頃からお参りしてしかも子供連れで明るい内に降りることができますか？と心配して頂いたり、行きかう人々より「お目出とう。」と声を掛けられて楽しく水尾への分岐まで来たが空腹のため子供連れにまたかまたかと言われて休憩しながらもう少しもう少しとたましましやっとの事。2時間少して事務所休憩所に到着。その前のまばらな杉林の中の平坦地では、5人の人達が京都の殿堂を楽しんでいた。

早速遅い昼食となり御茶の接待を受けて話もしないで食べることに一生懸命であった。約30分位で食時兼休憩を済ませ寒さのため足早に長い石階段を登り奥の院「愛宕神社」参拝と防火、鎮火の安全を願い御祈禱料（5人で¥1,000）を授けて帰りは石段下より京

都市内一望の展望と遠くにかすんだ比良連峰を見ながらジグザグ道を月輪寺コースをとって梨の木谷出合へ降りた時には暗く寂しく堂尻川に沿って林道を清滝へ急いだ。途中、バス停に着くまで人に逢うこともなく我々家族の声のみでぎやかだった。最後に悪天候そして道悪の中を今年5才になる末娘が完歩（オンブしないこと）した意義ある一日が過ぎたのが嬉しかった。清滝発17時43分で帰路

初 愛 宕 参 り

1月11日 晴

畑 照 人

昨日、本冬初の大雪?となつたので、輪かん、オーバシューズ、アイゼンを用意して行く。今日は気温も上り快晴となる。釈迦堂でバスを降り、雪景色の嵯峨野を楽しみながら試峠を越えて清滝道から上る。道は雪溶け水でまるで小川の様に流れ、上からは水がホタホタ、まるで雨降りの日みたいだ。約2時間で神社着。参拝、御神酒を戴く。冷たくてとても美味しい。気温-2°Cである。社務所で尋ねると、昨日の雪の降るのに50人程、参拝者があったという。流石に信仰の山であるわい。軽食をとって、下りは水尾道へ出て農協売店でワンカップ1本買って保津峡駅から快速に乗り帰った。積雪量 神社附近で約15cm

△ 526.7 (加悦奥) と 鍋塚山 △ 763.0

坂 井 久 光

今年昭和53年が京岳連創立30周年、来年昭和54年が京交山岳部創立30周年に当り、双方とも組織を上げて記念祝賀行事に取り組んでいる現状である。

そこで此の機会に我が京都府下の500m以上の三角点(三等以上)を5万分の1図を元に調べて見たら、県境を入れて182個であった。私はその内120余座は既登したので残りは60座未満であった。それで未登の三角点を昨年の初めから心掛けて登って行ったら、昨年の末現在で別表の如く50座となった。昨年12月17日夕、大江山山の家で自然保護委員会の忘年会兼研究会があり一泊するので、近くの未踏峰2座を登って来た。

山陰線で綾部乗換えて西舞鶴へ行き、雨だったが晴れそうなので宮津線に再乗継いで丹後山田へ行き、加悦鉄道に乗換えて終点加悦で下車。食堂で昼食後タクシーで加悦奥へ行き、奥から二番目の農家の前で下車。その家で三角点のある山への登路を聞いたが、前の小谷の道をつめたらよいとのこと。

谷間の山田の中を通過して谷川を渡って杉の植林の小谷をつめたが、道は消え左の尾根に取付いた。

踏跡に出てとんとん登ると一旦コルに下り、左手の谷道と合して再び登った。道は廻りこんで小谷へ入り、段々藪がひどくなる。谷奥で右手の尾根に取付いて踏跡を辿ると露岩が出て来て尾根が瘦せ間もなく櫓の立つ山頂へ。雨が晴れてガスから山容を露わした大江山・赤石岳・江笠山が前方に見え、速く三岳や登尾峠の無線塔がよく見え、西に東床尾山や高竜寺山が、北に足占山や依遅尾山・大鼓山が、東に青葉山が天の橋立の宮津湾の風光と共に見晴らせた。真に申分のない好展望台である。標高の割に良い山だった。

併し一休み後、下山を西の権現堂のある山とのコルに通ずる道をとった。コル迄はよかったが、谷を下ると始めは笹藪で次いで湿地が処々あり、悪くなかった。中流で竹藪が出て来て部落が近いと思ったのがいけなかったのか全くひどい荒蕪で、朽ちた竹が重なって倒れており、そこへイバラやツタがからみつき雑草が茂っているので歩きにくいことこの上なしの状態、一時は進退極まった。その内道らしいのが現れ、杉林へ入れたのでやれやれと思った。後は道を下ると林道に出て間もなく出石へ越える府道の出合の鎌倉神社の所に出た。奥滝の西端である。附近で△の山名を聞いたが誰も知らず、下った谷は宮口谷と云うそうだ。

東へ滝へ歩いて行き、南へ向きを変へ与謝へ行って大江山登山口の標識のある地点で折れて山河へ。こゝで山の家へ電話した。民家でコーヒーを沸かして一服して夕暮の大江山目指して登山開始。林道を登って谷道へ入り、標識に従って登山道をぐんぐん登って行くと日が暮れ、間もなく闇となったので懐中電灯を出して灯して歩く。尾根道と合し、更に急坂を登ると鬼岳稻荷への分岐(0.8km)地点に出て、ピークを越して下ると稻荷、こゝからは車道で広いが、人1人、獣1匹出合わず淋しい一人旅だった。千丈ヶ原を過ぎて灯が見えたが、山荘で山の家は未だ先だった。

山の家へ行くと近藤親分が来ておられ、皆が出て来て何処から来たとか、酒井先生と間違われたり大変賑やかだった。風呂で汗を流し冷えた体を温めて人心地がついて浴衣に着換へて食べた夕食はうまかった。翌朝一同は普用峠へ地質の見学に行くとのこと、車の予定もあるので、別行動をとって鍋塚山へ登ることにした。地図の直接の登路を谷から入り笹を分けて登って行ったが茂りがひどくなり遂に尾根近くで消えていた。後で聞くと廃道とのこと。

昔附近の娘達が加悦へ襦袢りに出る際利用した道だったが、近年その必要がなくなり廃道になったとか。仕方なく支尾根へ取付いて踏跡を求めて登り、支尾根の笹原に道を見付けたが、これも先で消え又は感漕ぎで山頂のツゲと笹の高原へやっと登った。展望は360°に渡って大江山や赤石・江笠が真近く北に760mの独標が大きくコルを越して府峙している。眼下に加悦谷が一望出来、宮津行の風光も美しい。西に青葉山の双耳峰が真近く、足占や太鼓・依遅ヶ尾山が北に目につく。

昨日登った加悦奥の△もよく見える。展望を楽しんでから北へ向って縦走路を下って鬼穴へ行き昼食を取り、独標から普用峠の無線塔を過って峠から国道を歩いて下った。途中ヒッチして二瀬川に行き一同と再会して福知山から汽車で帰洛。

コース・タイム 12/17

7.05 嵯峨 - 8.57 ~ 9.08 綾部 - 9.35 ~ 10.10 - 西舞鶴 11.30 ~ 11.35 丹後山出 - 11.52 ~ 12.13 加悦 - 12.20 加悦奥... 13.55 ~ 14.10 △ 526.7 (2等) ... 14.50 林道... 14.54

～ 15.37 奥滝… 16.00 滝… 16.20 与謝… 17.10 分岐… 17.35 尾根道 18.07 鬼岳 … 19.08 山の家(泊)

12/18 9.00 出発… 10.20 支尾根… 11.30～11.40 銅塚山… 11.55 コル… 12.10～12.27 鬼穴… 12.35 独標P. 13.00 無線中継所… 13.23 大江山スキー場… 13.55～13.57 二瀬川… 14.45～15.49 福知山— 18.02 岨岨

末登の府下500m以上の三角点

(52.12.27 現)

	20万分の1図	5万分の1図	山名	点標名	標高	等級
1	鳥取	出右		綾杉	565.5	3
2	宮津	網野		野村	600.7	2
3	"	"		犬頭	616.4	3
4	"	宮津		高尾	620.2	3
5	"	"		嶽	637.4	3
6	"	"		比自山	541.4	3
7	"	"		石川村	514.6	2
8	"	"		忠出	573.2	3
9	"	丹波由良		観音寺	562.8	3
10	"	舞鶴		川上	574.3	3
11	"	"		五泉	525.8	3
12	"	"		小中村	576.3	3
13	"	"		陸寄	581.7	2
14	"	"	中津灰山	"	746.1	3
15	"	"		大栗	681.4	3
16	"	小浜		故尾岡	505.9	3
17	"	"		西谷	675.2	3
18	"	"		盛郷	729.0	3
19	"	"		福居	618.8	3
20	"	"		知井	701.0	3
21	"	"		田歌	791.8	3
22	京都及大阪	福知山	鳥帽子山	鳥帽子山	512.5	3
23	"	"		親不知	604.6	3
24	"	"		西村山	547.8	3
25	"	綾部		粟野	560.5	3
26	"	"		坂原	511.5	3
27	"	"		奥山	588.8	3

28	京都及大阪	綾 部		小 淵	546.9	3
29	"	"		大 迫	675.1	3
30	"	"		向 山	695.5	3
31	"	"		篠 原	628.7	3
32	"	四ツ谷	奥ヶ迫山	知 見	702.0	3
33	"	"	奥の谷山	芦 生	811.0	3
34	"	"	磯木山	磯木山	545.0	3
35	"	"		高 野	550.0	3
36	"	"		勝 谷	636.0	3
37	"	"		深 見	665.0	3
38	"	"		島	626.0	3
39	"	"		室 谷	549.0	3
40	"	"		宇 野	556.0	3

別表の40座を今年中に例会にも取上げ精力的に登り抜いと考へています。それで御賛成の方は何卒宜しく御協力の程お願いします。未だ京都府の500m以上の△を全部登った記録はありませんし、又登ろうと云う人も知りません。完登の上は「京都の山やま」と題する本を出す積りです。

多くは登山で困難ばかりが多いことと思ひますが、未知の山を登る楽しみが待っています。どうか部員の方々の協力をお願いします。又500m以上としたのは低い山ではつまらないのと、よい山だけを選ぶのが困難(玉腕によるから)だからです。

例 会 報 告

例会No	目的地	月 日	天候	担当者	参加者	記 事
1155	三十三間山	12月11日 (日)	雨	大槻 雅弘	宮後 正樹 三橋 勉	「弁当忘れても傘忘れるな」という所であるからというわけではないが、京社を出る時、良い天気であったが、だんだん曇りまきがめやしくなつて…別情報報告
1156	金 箕 岳	12月17日 (土)	雨	岡本 義弘		前山祭準備のため中止
1157	前 山 祭	12月17～ 18日	曇 後晴	武田喜久郎	岡本、三橋 と子1、津田	

				宮俊、大槻岡田、徳野と子1、広瀬と子3、鷺見、守山、山村氏、武田妻と子2、岩峰会柳氏	前夜からの雨で予定を変更し、静原の岩峰会柳氏の山荘をお借りして、例によってにきやかに納山祭を行い翌朝、其妻ヶ岳に登った。なお新宮の玉岡氏より清酒の御奇贈がありました。
1158	初登り 馬谷山	1月8日 (日)	曇	宮俊 正樹 畑氏、山村氏、中村氏 壬生氏、田中定氏、大槻、武田子2 坂井、津田、尾崎、田中忠夫妻、広瀬、三橋	山村氏にさがしてもらった馬の付く山を畑氏の遺暦登山として18名という大部隊で全員元気よく登ってきた。 別稿報告
1159	30周年京都 府下30山 その1 由良ヶ岳	1月11日 (水)	晴	田中 忠久 上島 和彦 三橋 勉 鷺見 敏一 坂田 利春 広瀬 烈	山よし! 天候よし! 新雪よし! 人よし! すばらしい「丹後海山冬景色」であった。 詳細別稿報告

部 員 動 静

入 部 員 丸 22550 上河原 昇 大13.11.28生

左・修学院冲殿町 23-1 TEL 791-7863

雑 報

▲新年会兼集会

出席者 名誉部員 近藤氏、山村氏、中村氏、畑氏、壬生氏
本 局 宮俊、坂井、木下、大槻、津山、武田、岡田、三橋、上島
梅 津 吉田、徳野 五 条 大倉、 北 野 坂田、
九 条 田中、広瀬、鷺見

以上 21名

我が京交山岳部の創設30周年を記念して京都府下30山に登ろうと云う計画が人気を呼んで、当然の事ながら山の話に花が咲いた。今日その第一回目、由良ヶ岳に登って来た6人の「よい山であっ

た」と云う報告がさらに話に輪をかけて、名譽部員の方々に一人一山を担当していたとく話など実に楽しかった。今年もよい登山が出来そうな新年会であった。なお、名譽部員の方々から消酒やおみかんを献だきましてありがとうございました。

▲部費受領

- 52年前後期 九条 沢井佳三、滝 裕
53年度前後期 五条 大倉寛治郎、
息丸 尾崎重夫、上河原 昇

▲岳連理事会報告

1月17日 於鴨沢高校で下記の説明及報告があった。

1. 第6回技術研究登山 2/10~12 富士山 〆切 1/25
2. 30周年記念事業関係中間報告
 - I. 記念式典 53.6.11 京都会馆会議場(式典・講演(今西博士))
 - II. 山岳展 53.6月中旬 於大丸
 - III. 記念出版 発行部数 500~1000 @2000.-
3. 第19回全日本登山大会 5/25~28 蔵王連峰
4. 登山教室 堂洞岳 4/15・16 小雨決行 〆切 4/1
5. 指導員検定会について 3/4・5 伊吹山
受検資格 1. 地区指導員 山歴7年(内冬山4年) 以上24才以上
2. 日山協2種指導員 地区指導員2年以上 27才以上
6. 団体委員会設置について 設置に決定する。
7. 遭難対策委員会報告
 - イ. 坂野景警の要請(登山計画の提出、適切なリーダー、無禁登山をせぬ事)
 - ロ. 北良山パトロールの件
8. 海外遠征委員会報告 ダウラキリ山峰
隊員10名(申請15名) 53年秋予定

企画運営リーダー会

2月20日(月) 田中宅



まかせて下さい……ネ

山とスキー

のことならー

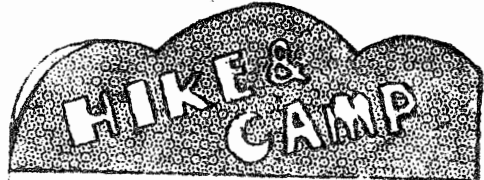
☆在庫豊富にとり揃えています

☆山の道具は“ゼヒ”御相談下さい

山とスキー専門店

ビッグホリイケ

河原町店 上・河原町通 丸太町東入
烏丸店 中・烏丸丸太町南下ル東側



この用具の事なら「ユニシヤ」一番です!

御来店ありがとうございます

山とスキー レジャー スポーツ ショップ
そして 海の



中・二条通河原町西 TEL231-1208

帆布・濾布
テント・シート
雨合羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801-5331 (代)

名古屋営業所
名古屋市西区児玉町7-30
TEL 521-7541代~4

テニス用品
スキー用品
山用品

交通局の皆さん

とりあえず 京菱へ

満足のいくようにします

京菱運動具店


下・大宮松原上ル
TEL 801-1331

昭和53年 2月 1 日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局 内 京交山岳部

真の専門店として
好日山荘は前進しております
山とスキー用具の
ことなら御まかせ下さい
確信ある用具を
確信ある価格で・・・
好日山荘
河原町六角下ル東入
TEL 241-1731



PRO SHOP
山とスキーチヨル
輸入品とオリジナルの店
AM 12.00 ~ PM 9.00 三条御幸町下
定休日 月曜日 (221) 6186

京都最高のアクアラング用品専門店

- ウェットスーツ製造直売
- 潜水器具特別割引販売
- 現役プロダイバーと全日本潜水連盟公認指導員による
安全確実な潜水指導 (毎週木曜 夜7時ヨリ)

**ダイビングプロショップ
エリート**

スキューバプロ (米)	京都総代理店
スキューバアポロ	京都総発売元
AMF ポイト (米)	京都総代理店
テクニサブ (伊)	京都総代理店

603 京都市北区堀川通北大路上ル東側 TEL 075 (492) 8450

お馴染みのスポーツ店
一般スポーツ用品・用具
家庭用体操器具
購買証でご利用下さい

KK 西沢スポーツ
中、釜座御池下ル
TEL 221-5739



山とスキーの店
京都 **あるむ**

京都市中京区新町三条上ル
☎075-255-0288